

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	有田町立有田小学校
1 前年度 評価結果の概要	・校長のリーダーシップのもと「有田大好き 進んで学ぶ さわやか有田っ子」を合い言葉に、職員が一丸となって学校目標の実現に向け取り組んできた。 ・個別最適な学びと協働的な学びが相乗効果を招くよう、校内研究をベースにした研修会で研鑽を深めた。児童用端末機器の文房化への足がかりとなる研修を行った。 ・PTAや地域との連携は、学校評価保護者アンケートにおいても肯定的な評価をしていただいた。 ・「子どもを知る会」を毎週水曜日に実施し、全職員で「気になる子」への支援を共通理解することができた。
2 学校教育目標	ふるさとを愛し、自ら学び、たくましく生きる児童の育成
3 本年度の重点目標	① 校内研究における「自分の考えを広げ深める児童の育成」をベースに、個別最適化の指導スキルの向上を目指す。 ② 特別支援教育を充実させ、気になる子への支援を全職員で共有し、共通実践を組織的・継続的に行う。 ③ 「つなぐ」をキーワードに、担任同士や地域や関係機関と連携した教育を推進し、児童が郷土を愛し誇りに思う心情を育て、活躍したり披露したりする場を設ける。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員が「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識して授業を仕組み、授業デザイン力を磨く。 ○考えを交流する中で自分の考えを広げ深める児童の育成を目指し、授業改善に取り組む。	○全学級で授業研究会を実施する。 ○授業における交流に関する児童アンケートで肯定的な回答をする児童を90%以上。	○自分の考えを広げ深めさせるために、思考を可視化する授業展開を行う。 ○全職員が所属グループ学年で研究授業及び授業研究会を行う。 ○短時間のICTスキルアップ研修会を実施する。		・		・		・	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●「友達を大事にして、仲良く過ごすことができた」と考える児童の割合を90%以上。	●ふれあい道徳などの公開授業やふれあい活動(縦割り班活動)の中で、思いやり的心や感謝の気持ちを育てる。		・		・		・	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●人権・同和教育、道徳教育を充実し、「いじめ防止に努めた」と考える教職員を90%以上。	●Q-Uテストの結果をもとに、児童理解に努める。 ●個人面談を行い、一人一人の児童と担任等との対話を積極的に行う。		・		・		・	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	●Q-Uテストの結果をもとに児童理解に努め、小さなことでも褒めたり認めたりする。 ●総合的な学習の時間で職業を調べると、将来の夢や目標について考える時間をとる。		・		・		・	
	○ふるさと有田に愛着をもち、有田のよさを感じる児童の育成と教育活動の推進	○「有田町を好き。」と回答した児童を90%以上	○陶器市遠足や地域学習等、有田町のことを深く知ることのできる機会を設ける。		・		・		・	
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ㊟「望ましい生活習慣の形成」	㊟自ら進んであいさつをする児童が90%以上。	○全校朝会等で全校児童への呼びかけをする。 ○教職員自ら来校者に挨拶をし、挨拶が広がる学校を目指す。		・		・		・	
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○ゼロの日を水曜日に設定し、職員はもちろんのこと、児童の交通事故もゼロにする。	○1学期に交通教室、学期始めに集団登校、毎月1回集団下校を行う。 ○登校班の確認、通学路の点検を防犯ふれあい隊と連携し、見守り活動を推進する。		・		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	●会議時間の縮減に努める。 ○システムで職員の時間外勤務を把握し、平日は、18時00分までに退勤するよう促す。 ○会議や配付資料のペーパーレス化をする。		・		・		・	
	○定時退勤日の設定	○定時退勤できたと考える職員を90%以上。	○定時退勤日(水曜)を設定し、定時に退勤するように呼びかける。		・		・		・	
●特別支援教育の充実	○全職員による共通理解と共通実践による組織的対応	○「支援を要する児童への対応の仕方の理解が深まった」と考える教職員90%以上。	○特別支援教育に関わる研修を年5回以上行い、専門的知識を深める。 ○毎週「子どもを知る会」を実施し、支援についての共通理解を図る。		・		・		・	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域と連携した教育活動の推進	◎地域の人材や教育資源を活用した体験活動の充実	○「学校は保護者・地域と連携しながら教育を行っている」と考える保護者90%以上。	○世界に誇れる有田焼をはじめ、地域の歴史・文化等、地域の人的・物的教育資源を活用した学習を年間を通して計画的に行う。		・		・		・	
○落ち着いた生活態度の育成	○全児童が落ち着いて生活できる静かな環境づくり ○ノーメディアデーの周知、充実のため家庭と連携を図る。	○「静かな廊下歩行、無言掃除などができた」という児童が80%以上。 ○ノーメディアデーの実施率を90以上。	○「有田っ子プライド」(月目標)を全職員で共通理解を図り、指導を徹底する。 ○ノーメディアデーの呼びかけを通信、花まる連絡帳等で行う。		・		・		・	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------